

エドテックのマナビー幹部、中国での起業経験をアジアに

[日経産業新聞](#)[フォローする](#)

2022年9月11日 2:00 [有料会員限定]

保存



シンガポールに本拠を置く教育スタートアップのマナビーが日本を含むアジアで事業を拡大している。ベトナム・ホーチミンでオンライン学習アプリなどの開発責任者を務めるのがバイスプレジデントの三沢公希だ。大学卒業後に中国・北京で起業しており、その経験やノウハウを各国の教育サービス市場で生かす。



みさわ・こうき 2014年東北大学工学部卒。16年中国・清華大学で環境工学修士を取得。同年に北京でオンライン教育の清成教育を設立。19年マナビー入社。21年バイスプレジデント。

マナビーは最高経営責任者（CEO）の本間拓也が創業した。日本とベトナムで事業を展開しており、日本では学習塾や大学向けに勤怠管理や学習進捗管理などの業務用システムを販売する。

ベトナムではホーチミンを中心に学習塾を5教室ほど運営するほか、オンライン授業配信のプラットフォームや、講義動画を視聴できるスマホアプリを手がける。スマホアプリはベトナムで1万人が利用する。

こうしたシステムの開発を担うのがベトナムの現地法人だ。三沢はフィリピンの拠点を含めてエンジニアやプロダクトマネジャー、デザイナーなど約200人の開発チームを率いる。2023年以降、インドやインドネシアなど新たな市場へ進出し、「業務支援からオンライン授業まで教育のあらゆるシステムを提供することを目指す」。

苦労しているのは「コミュニケーションのギャップを埋めること」だ。ベトナムのエンジニアや日本の社員は英語が得意でない者も多い。「意思疎通の間違いがないよう、文書ベースでのコミュニケーションを基本としている」



マナビーはベトナムで学習アプリなどの開発を進める

サービスに磨きをかける助けとなっているのが中国での起業経験だ。三沢は16年から19年まで北京でオンライン教育の清成教育を経営していた。当時、教育とIT（情報技術）を組み合わせた「エドテック」の世界でも最先端のサービスに触れ、異文化の中で事業を進める経験を積んだ。

三沢が起業を志したのは高校1年生のときだ。3歳から続けていたピアノのコンクールに参加するため米国カリフォルニア州に赴くと、ホームステイ先が飲食店チェーンを運営する起業家だった。ビジネスの話聞き、「海外で社会にインパクトを与える人になりたいと思った」。

「集中力と馬力はある」

進学した東北大学では3年生まで競技スキーに熱中。クロスカントリーなど大会でも好成績を残した。「やると決めたら集中力と馬力はある」と自己分析する。

大学4年生になると、進路について模索した。大学院に行くか就職する同級生が大半だが、「海外で起業したい」との夢を捨てきれなかった。選んだのは中国・北京の清華大学への留学だ。生活費が欧米に比べて安いこともあるが、起業家支援が手厚く、国全体がスタートアップで盛り上がっていた。大学院で環境工学の修士号を取り、16年に起業した。

エドテックを選んだ理由は「習い事のピアノを含め長く教育を受けてきたので情熱が持てる」ことに加え、「起業の勝敗は市場の大きさに決まる」と考えたからだ。中国は教育熱の高さとともに、IT先進国であり、関連のスタートアップが勃興していた。

三沢は中国内陸部の安徽省など地方都市に狙いを定めた。幼稚園から小学生を対象に、北米や南アフリカのネイティブの英語講師とつなぐオンライン教育を手がけた。

ところが、中国当局による教育産業への規制が道を阻む。過熱する受験戦争や教育格差の是正などが理由とされる。オンライン教育の資格が求められたり、規模の小さな塾の経営が規制されたりした。

三沢は19年に清成教育を清算した。「政策に逆行して事業を拡大することの難しさ」とリスクを感じた」。帰国後、声をかけてきたのがマナビーCEOの本間だった。中国でのエドテックのイベントで知り合い、本間が中国を訪れる度に食事をもつ間柄だった。

先駆者との出会い

「一度、ベトナムへ来てみませんか」。三沢を誘った本間は英国留学を経て、エドテックの英クイッパーを創業し、東南アジアで経験を積んでいた。三沢は「グローバルな教育サービスを提供する先駆者の本間と事業をやりたかった。中国での自身の経験も生かせると思った」と話す。

三沢は「中国ではいろいろな教育サービスが生まれては淘汰され、サービスが磨かれていた」と振り返る。人気講師がオンラインでライブ授業をして、実際の教室にいる教師が生徒をフォローする「ダブルティーチャー制」と呼ばれるシステムが人気だった。ライブ授業は録画授業の配信よりも双方向で学習効率が高かったという。

世界最先端だった中国のエドテックを肌で実感した経験をサービス開発に生かす。グローバル市場への新たな挑戦が始まった。=敬称略

(名古屋支社 安西明秀)